

長野松代総合病院 整形外科専門研修プログラム

目次

1. 整形外科専門研修の理念と使命
2. 長野松代総合病院整形外科専門研修後の成果
3. 長野松代総合病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴
4. 研修方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ①専門知識の習得計画
 - ②専門技能の習得計画
 - ③経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術手技等）
 - ④プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ⑤リサーチマインドの養成計画
 - ⑥学術活動における研修計画
 - ⑦コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）
 - ⑧地域医療における研修計画
 - ⑨サブスペシャリティ領域の連続性について
 - 4.3 研修及びプログラムの評価計画
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 整形外科専門研修の理念と使命

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められます。このため整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備えなくてはなりません。さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の習得に邁進し、運動器にかかわる疾患の病態を正しく把握する能力が求められます。一方、年々厳しくなっている我が国の医療情勢に対応し、患者との良好な信頼関係を築くコミュニケーション能力も求められます。

整形外科専門医は、生活習慣や加齢性変化および災害、スポーツ活動などによって発生する運動器疾患と障害の予防や治療に関する知識や能力を備えなくてはなりません。さらに、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器に関する健全な発育や健康維持のため、必要に応じて手術を用いて貢献する使命があります。

2. 長野松代総合病院整形外科専門研修後の成果

長野松代総合病院整形外科専門研修プログラムを修了した専攻医は、運動器疾患に関する科学的知識を備え、手術を含めた整形外科分野の基本手技の取得が達成できます。豊富な外傷症例を経験することにより、ひとりで出来る救急対応も広範囲に可能となります。さらに、個々の目指す専門分野（関節外科、脊椎外科など）の知識と技術の習得を継続して深めることで、専門性の高い整形外科医を目指します。

また、専門研修中に築いたリサーチマインドをもとに、整形外科分野における新たな知見を見出していく診療を行っていくことになります。さらに、整形外科専門医として専攻医や初期研修医に対する整形外科教育も行うことになります。

専門研修プログラム修了後は、個々の希望により当院で継続して勤務・研修することも可能ですし、他施設に移り新たな分野での診療・研究に挑戦することも可能です。

また、専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも取得出来ます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して誠実に自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）。
- 3) 診療録の的確な記載が出来ること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実現できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や実践が出来ること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。

3. 長野松代総合病院整形外科専門研修プログラムの目標と特徴

＜専門性の高い医療を提供できる整形外科医を目指して＞

長野松代総合病院整形外科専門研修プログラムは到達目標を「専門性の高い医療を提供できる整形外科医」としています。2018年度からスタートした新専門医制度に先立ち、長野松代総合病院整形外科では、2006年より独自の後期研修プログラムを確立し運用しています。このプログラムによりこれまでに、5名の整形外科後期研修医が応募し、研修を行いました。そのうち5名が日本整形外科学会専門医試験に1回で合格し、整形外科スタッフとして継続して当院に勤務しました。整形外科専門医となった5名はそれぞれ専門分野を持ち、国内外の学会発表や英文を含む医学論文を多数報告しています。今回の専門医制度の改正により、大学以外の病院においては、初めて独自の専攻医に対して専門医研修の指導を行う施設も多いかと推察しますが、当科では上述のごとくすでに10年以上の運用経験と実績があります。専門医制度は変わりますが、当院ではこれまでの実績に基づいた指導を今後も行っていきたいと思います。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建を目指す臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢化社会をむかえた我が国においては、運動器疾患を扱う整形外科の社会的役割はますます高まってくることが予想されます。現在、長野松代総合病院には、脊椎、股関節、膝関節、スポーツ医学、上肢（手の外科）、足の外科の各分野に指導医が在籍しています。整形外科のサブスペシャリティとしても日本手外科学会専門医（1名）、日本脊椎脊髄病学会指導医・専門医（1名）が在籍しています。一般病院である特性上、外傷に関しても豊富な症例数が経験でき、研修到達度により術者として術前計画、手術および術後フォローの経験も十分可能です。

また、リハビリテーション学やリウマチ学についても、日本リハビリテーション医学会指導医（1名）、専門医（1名）および日本リウマチ学会指導医（1名）、専門医（3名）がそれぞれの分野において直接指導を行います。また、学術的指導にも力を入れており、症例報告から基礎的研究に至るまで学会発表や論文の指導を受けることが可能です。

連携施設では、脊椎外科、関節外科、手外科、小児、腫瘍、地域研修などの研修が可能で、それぞれ特色を持った2施設でプライマリ・ケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。特に信州大学医学部附属病院においては、大学病院ならではの高度医療を経験出来るとともに、教官からリサーチマインドの養成をめざした臨床研究の指導が受けられます。

長野松代総合病院整形外科専門研修プログラムでは、専攻医のみなさんに素晴らしい研修環境を提供し、個々の能力を引き出して発展性のある研修を目指します。

4. 研修方法

＜参照資料＞

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

4.1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、長野松代総合病院（基幹病院）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年次毎の到達目標と専門技能習得の年次毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第3者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靱帯、神経などの運動器を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。そして、翌年の1月に日整会専門医試験を受験可能となります。

①専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識の修得状況を6ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

専攻医は1年目4月中に開催される専門研修プログラム管理委員会主催のクルズスに参加し、初期研修期間の知識の整理を行うとともに、専攻医として整形外科診療を行うための基本事項を学習します。

②専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能の習得状況を6ヶ月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を少なくとも年1回は行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医が獲得できていない基本技能があれば、日常診療で経験できる配慮を行うとともに、これを獲得するための実技講習を専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術手技等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術手技等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を長野松代総合病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

④プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が自ら経験した症例や長野松代総合病院の臨床例を用いた臨床研究を行い、学会報告および論文作成を最低年1回は行う計画になっています。また、連携施設である信州大学整形外科での研修期間には、臨床研究および基礎研究の指導を大学教官から直接受けられる機会が得られます。

⑥学術活動における研修計画

学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医1人あたりの学会発表、論文等）

⑤で記載しましたとおり専攻医が全国レベルの学会発表を年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。長野松代総合病院整形外科のこれまでの（後期）研修医には研修期間に国際学会での発表や英語論文作成を行った医師も複数います。従いまして、これまでの実績から専攻医の意欲次第では、研修期間においても国際レベルでの学術活動も可能ですし、それを指導できる体制も有しています。また、専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に評価を行い指導・助言します。

⑦コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

長野松代総合病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧地域医療における研修計画

長野松代総合病院の診療は地域医療を含む内容です。長野地区は高齢化が進んでいる地区のため、高齢者の外来・入院から在宅への連続した診療を経験することは容易です。さらに、連携施設である飯綱病院では、長野松代総合病院よりさらに地域に根ざした整形外科医療を経験することが可能です。

⑨サブスペシャリティ領域の連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの長野松代総合病院および連携施設すべてにサブスペシャリティ領域の研修認定施設が含まれています。長野松代総合病院や信州大学では、脊椎領域、関節リウマチ、および手外科領域にそれぞれ指導医や専門医が複数在籍しています。また、飯綱病院でもリウマチ専門医から指導を受けることが出来ます。また、整形外科研修項目に含まれるリハビリテーション学に関して、長野松代総合病院と信州大学では日本リハビリテーション医学会指導医あるいは専門医から指導を受け研修することが出来ます。このように長野松代総合病院の整形外科専門研修プログラムでは専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を手厚く支援する体制が整っています。

4.3 研修及びプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヶ月に1回行い（9月末および3月末）、専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた長野松代総合病院および各研修施設での研修評価（態度も含めた総評）を各施設での研修終了時に行います。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

長野松代総合病院臨床研修センターに専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。

年4回の定期委員会（6,9,12,3月）を開催します。3月に専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、長野松代総合病院臨床研修センターに報告します。活動報告および研修プログラムは長野松代総合病院ホームページで公開します。

③プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

- ① 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること
- ② 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- ③ 臨床医として十分な適性が備わっていること
- ④ 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること
- ⑤ 日整会が主催する骨・軟部腫瘍特別研修会を受講していること
- ⑥ 1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること

以上①～⑥の修了認定基準をもとに、専攻研修（3 年 9 か月終了時）の 12 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

長野松代総合病院では、整形外科専門研修プログラム整備基準解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にある、脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、スポーツ、小児整形、腫瘍、リハビリテーション、地域医療の分野を研修することが出来ます。長野地区での整形外科分野における中核病院として、最新の設備を利用した診断方法を学ぶとともに豊富な症例を経験することが可能です。各専門分野では学会の専門医や指導医が複数在籍し、信州大学医学部の臨床教授 1 名が在籍するなどアカデミックポジション経験者が直接指導します。さらに、毎週月曜日に行われる総回診や診療チームごとの症例検討および全体での手術ミーティング、英語論文の抄読会などにより専門的な知識・技能を取得することが可能です。手術ミーティングでは、受け持ち医として（時には執刀医として）症例提示を行い、治療方

針の決定に携わります。勿論その過程では、指導医が現在の医療水準に従い、詳細に指導を行います。

分野	週間スケジュール					
	月	火	水	木	金	土
脊椎・脊髄	AM 手術	AM 外来	AM 手術	AM 外来	AM 外来	AM 病棟回診
	PM 総回診 画像カンファレンス	PM 外来	PM 手術 病棟回診	PM 外来	PM 外来 造影検査	PM 救急外来等
上肢・下肢	AM 外来 病棟回診	AM 手術	AM 外来 病棟回診	AM 外来 手術	AM 外来	AM 外来
	PM 手術	PM 手術 病棟回診	PM 外来 手術	PM 手術	PM 外来 造影検査 手術	PM 救急外来等
スポーツ	AM 外来	AM 手術	AM 外来	AM 手術 病棟回診	AM 病棟回診	AM 外来
	PM 外来 総回診 画像カンファレンス	PM 手術 病棟回診	PM 外来 手術	PM 手術	PM 造影検査 手術	PM 救急外来等
人工関節	AM 手術 病棟 総回診 画像カンファレンス	AM 外来	AM 手術	AM 外来	AM 外来	AM 外来
	PM 手術 病棟回診 画像カンファレンス	PM 外来 手術	PM 手術	PM 外来 手術	PM 外来 造影検査 手術	PM 救急外来等
外傷	AM 外来 病棟回診	AM 手術	AM 外来 病棟回診	AM 外来 手術	AM 外来	AM 外来
	PM 外来 総回診 画像カンファレンス	PM 手術 病棟回診	PM 外来 手術	PM 手術	PM 外来 手術	PM 救急外来等

	月間スケジュール					
	月	火	水	木	金	土(第2・4土曜午前のみ)
第1週	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)
	PM 総回診	PM 救急事例フィードバック カンファレンス	PM 術前症例カンファレンス	PM 各チーム回診	PM 各チーム回診	
第2週	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)
	PM 総回診		PM 術前症例カンファレンス	PM 各チーム回診	PM 各チーム回診	
第3週	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)
	PM 総回診	PM 救急事例フィードバック カンファレンス	PM 術前症例カンファレンス	PM 各チーム回診	PM 各チーム回診	
第4週	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)	AM HCUカンファレンス (必要時)
	PM 総回診	PM 救急症例カンファレンス	PM 術前症例カンファレンス	PM 各チーム回診	PM 各チーム回診	

備考

- ・HCUカンファレンスは自分のチームの患者がHCUへ入院している場合に、朝に各科合同で参加しているカンファレンスである
- ・救急事例フィードバックカンファレンスは、当院初期研修医が行うカンファレンスであり、そこに指導医という立場で参加する
- ・術前症例カンファレンスは、自分の所属チームの患者の術前プレゼンテーションを行い、批評、検討している
- ・救急症例カンファレンスは、初期研修医が教育的な代表症例をプレゼンテーションする場であり、自分の患者がそれにあたっていた場合はプレゼンテーションの指導を行う

また、長野松代総合病院には整形外科関連学会の評議員が複数在籍しています。
日本関節病学会評議員:1名、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会評議員:1名、中部整形
外科災害外科学会評議員:1名

本プログラムの連携施設は2施設（信州大学医学部附属病院、飯綱町立飯綱病院）です。
それぞれの施設の研修可能分野とローテーション表及び専攻医ごとの年次別単位取得計画、
指導医と指導分野については表に示します。

信州大学では地域医療以外の9分野で研修が可能です。日本脊椎脊髄病学会専門医、日
本手外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本リハビリテーション医学会専門医が複
数在籍しています。毎週月曜日に行われる手術ミーティングや教授回診では1例1例詳細
な検討が行われ、現在の医療水準に照らし合わせて方針が決定されています。当プログラ
ムの専攻医も、信州大学での研修中は受け持ち医として（時には執刀医として）症例のプレゼ
ンテーションを行うとともに、手術を含めた治療を行います。

飯綱病院では、整形外科専門領域に加えて、農村地区における地域医療を学ぶことが可能
です。飯綱病院では在宅医療を含めた外来診療もほかの施設では経験できない内容の研修
が可能です。勿論、各分野にわたり、受け持ち医もしくは執刀医として手術治療に関わりま
す。また、小規模病院ゆえにコメディカルとの連携も学びやすい環境であると考えます。

整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム
整備基準付属解説資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照してください。

【長野松代総合病院整形外科専門研修プログラム 専攻医ローテーション表および取得単位】

		1年目前半	1年目後半	2年目前半	2年目後半	3年目前半	3年目後半	4年目
専攻医A	研修施設	長野松代総合病院	長野松代総合病院	信州大学	信州大学	飯綱病院	飯綱病院	長野松代総合病院
	取得可能単位	a3,d3	b3,c3	a3,i3	b3,j3	d3,h3	c3,h3	e3,f3,g3
専攻医B	研修施設	長野松代総合病院	信州大学	信州大学	信州大学	長野松代総合病院	飯綱病院	長野松代総合病院
	取得可能単位	b3,d3	i3,j3	c3,g3	a3,b3	c3,e3	d3,h3	a3,f3,k3
専攻医C	研修施設	長野松代総合病院	信州大学	信州大学	飯綱病院	飯綱病院	長野松代総合病院	長野松代総合病院
	取得可能単位	c3,d3	a3,j3	b3,i3	c3,h3	d3,f3	b3,e3	a3,g3,k3
専攻医D	研修施設	長野松代総合病院	長野松代総合病院	飯綱病院	信州大学	信州大学	長野松代総合病院	長野松代総合病院
	取得可能単位	c3,d3	a3,b3	d3,h3	a3,i3	d3,j3	b3,e3	f3,g3,k3
専攻医E	研修施設	長野松代総合病院	長野松代総合病院	信州大学	信州大学	信州大学	飯綱病院	長野松代総合病院
	取得可能単位	a3,d3	b3,c3	a3,b3	i3,j3	c3,g3	d3,h3	e3,f3,k3

【専門研修施設群 専門研修指導医 一覧】

施設名	役職	指導医名	指導領域 1	指導領域 2	指導領域 3
長野松代総合病院	院長	瀧澤 勉	b	f	i
長野松代総合病院	整形外科 統括責任者	北原 淳	a	d	h
長野松代総合病院	整形外科部長	松永 大吾	c	g	i
長野松代総合病院	整形外科部長	中村 順之	c	e	h
長野松代総合病院	整形外科副部長	望月 正孝	g	b	d
長野松代総合病院	整形外科副部長	豊田 剛	c	d	e
信州大学医学部附属病院	教授	高橋 淳	a	e	l
信州大学医学部附属病院	講師	林 正徳	b	d	i
信州大学医学部附属病院	講師	天正 恵治	c	f	g
信州大学医学部附属病院	准教授	中村 幸男	c	e	i
信州大学医学部附属病院	准教授	青木 薫	f	i	j
信州大学医学部附属病院	助教	岡本 正則	d	i	j
信州大学医学部附属病院	助教	下平 浩揮	c	e	g
信州大学医学部附属病院	診療助教	鬼頭 宗久	d	g	j
信州大学医学部附属病院	診療助教	田中 厚誌	d	g	j
信州大学医学部附属病院	診療助教	上原 将志	a	d	g
信州大学医学部附属病院	医員	小山 傑	c	d	g
信州大学医学部附属病院	診療助教	大場 悠己	a	e	i
信州大学医学部附属病院	診療助教	滝沢 崇	a	d	f
飯綱病院	病院長	伊藤 一人	c	e	h
飯綱病院	整形外科医長	松永 智美	b	d	f

a：脊椎、b：上肢・手、c：下肢、d：外傷、e：リウマチ、f：リハビリ、g：スポーツ、
h：地域医療、i：小児、j：腫瘍

6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である長野松代総合病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために長野松代総合病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置きます。

本研修プログラム群には、1名の整形外科専門研修プログラム統括責任者を置きます。

②基幹施設の役割

基幹施設である長野松代総合病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

長野松代総合病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

③専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④専門研修プログラム管理委員会の役割と権限

- 1) 整形外科専門研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。
- 2) 整形外科専門研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。
- 3) 専門研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認め

る場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

- 4) 専門研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。
- 5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行います。
- 6) 長野松代総合病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。長野松代総合病院に置かれたプログラム統括責任者は、統括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

- 1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医
- 2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

- 1) 専門研修基幹施設である長野松代総合病院における専門研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。
- 2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

長野松代総合病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

【募集人数】

各年次 1 名 合計 4 名

専攻医最大受け入れ可能数は、指導医数及び各施設の新患者数及び手術数で定められている受け入れ基準から 3 名になりますが、指導内容の充実に重きを置いて各年次 1 名、合計

4名と設定しました。

	新患者数	手術数	指導医数
長野松代総合病院	1763	1164	6
信州大学附属病院	1435	1029	12
飯綱病院	1201	270	2

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

「長野松代総合病院整形外科専門研修および病院見学特設ページ」

必要書類：① 専門研修プログラム応募申込書（ダウンロード）

② 履歴書（既製のもので可）

③ 医師免許証（コピー）

④ 医師臨床研修修了登録証（コピー）

【募集期間】

2021年9月1日～

【問い合わせ先】

〒381-1231 長野県長野市松代町松代 183

長野松代総合病院 整形外科

担当：永岡えりか（臨床研修センター）

Tel：026-278-2013 Fax：026-278-9167

Mail：rinken@hosp.nagano-matsushiro.or.jp